**「ガイドと歩くとっとりの魅緑（みりょく）ツアーを実施しました」**

令和５年１１月３日（金・文化の日）に一般の県民の方々を対象に、西部地区のまちなかの緑を紹介しながら巡る「ガイドと歩くとっとりの魅緑（みりょく）ツアー」を実施しました。募集定員３０名を大きく上回る３９名（うち４名は座学のみ）の参加をいただき、鳥取県大山自然歴史館の矢田貝繁明館長を特別ゲストガイドに迎え、事前に実施した人材育成講習会に参加したメンバーが何度も打ち合わせを重ねてガイドを務めました。

当日は、約１時間ほど座学でまちなかの緑について学んだあと、汗ばむほどの陽気の中を貸し切りバスに乗りあわせて、ポイントごとに下車して樹木の観察をしたり、あるいは車窓からまちの緑を見ながら緑を見て回りました。昼休憩の境夢みなとターミナルでは、松葉で作ったサイダーの試飲、ヤマモモのジャムの試食、木の実や種を手に取って樹名を当てるクイズなどのアトラクションも交えて楽しく過ごしていただきました。米子城跡の自然植生の観察では、自然観察ガイド経験の豊富な矢田貝館長による解説に参加者も興味津々、私たちも「面白く伝える」秘訣を学ぶことができました。今さまざまな課題を抱える街なかの緑について参加者の方々の関心や知識を深めることができたのではないかと思います。こうして緑に対する理解の輪がさらに広がっていくことを期待します。

参加者の皆さん、支援していただいた全ての関係者の方々に感謝申し上げます。また、人材育成講習会の講師を務めていただいまちの緑について先進的な取り組みを実行している杜の都仙台市の石出慎一郎氏、講習会の講師をしていただいただけでなくツアー当日にもガイドをしていただいた大山自然歴史館の矢田貝館長様にも深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

参加者アンケートの結果はグラフの通りとなりますが、主に感じたことは以下の通りです。

①参加者の属性：１０歳代未満から８０歳代以上と幅広い年齢層の方が参加された。６０歳代以上が多く、今後若年層の参加にも力を入れることが必要。性別では女性が過半数を占めていたが、男性からは植物そのものより街なかの緑の置かれた状況などに注目した質問が多かった。

②イベントを知ったきっかけ：新聞記事に取り上げられたことや折込チラシによって知った方が多く、その人たちから誘われた方も多かった。年齢層が高めだったこともあり、ホームページでの告知からの参加者はゼロであった。

③参加の理由：まちの緑について知りたかったと回答した人が過半数を占め、自然や植物が好きと回答した人より多かったことは予想外で、本イベントの目的とするところもそこにあったので、より関心を深めることができたと思う。

③参加した感想：回答者全員から良かったと評価を得た。いただいたコメントからは、興味はあるが知ることのできなかった知識が得られたといった評価が多く、この点でもツアーの目的を果たせたと感じた。

④今後参加したいイベント：今回と同様のツアーを望む声が多かった